

平成二十八年一月投句

【太宰府】

雪が縫ふ旧街道の松並木

本職は郵便局長山始

而してごみを漁るや初鴉

勝利

先がけて咲く飛梅の白さかな

光子

燃え尽きるまで真っ直ぐに破魔矢かな

よく話し食べては笑ひ女正月

強風にどんどの山を小さくし

幣白き手斧掲げ禰宜山始

打ち鳴らす子等の太鼓やどんど焼き

佳与子

見渡せる筑紫あまねく冬霞

真理子

草原の石の温みや日向ぼこ

飛梅も咲いて宰府の人出かな

雪片となり我が庭を横飛びに

初雪や深川飯に湯気の立ち

よそいきの声で笑って初電話

節子

拝受せし御朱印七つ福詣

由紀子

新装の町家博多の能始

飛梅の一輪に足る一日かな